

## 里帰り分娩の実態調査(第2報)

加藤 志明 日本総合愛育研究所  
 鈴木 洋 総合母子保健センター  
 加藤 則子 国立公衆衛生院  
 高野 陽 国立公衆衛生院

前回は、住所地以外の他府県で出産した里帰り分娩、及び非里帰り分娩についての調査を東京と川崎の保健所で行ったので、今回は逆に、東京に里帰りして出産した里帰り分娩についての実態調査を行った。東京都内にある愛育病院、葛飾赤十字産院、築地産院で昭和58年1月から59年7月までの間に里帰り分娩した母親にアンケートを郵送した。約6600の出産中、病院から2～3時間以上離れた所に自宅がある363例に発送し、住所変更、非里帰り分娩を除く157例から有効回答を得た。以下の表にその結果を示す。なお( )内と「非里帰り群・東京で出産」は前回の調査結果である。

現住所は関東地方が過半数を示め、近畿、東海・北陸と続いていたが、それ以外の地方は少なかった。里帰り分娩をした理由を表1に示す。

表1 里帰り分娩をした理由(複数回答あり)

	東京で出産	地方で出産
人手の問題	54.1%	(58.6%)
出産前後の不安	57.3	(28.3)
里帰りが習慣	11.5	(14.5)
人のすすめ	1.9	(0)
特に理由なし	2.5	(2.1)
他(出張、転勤等)	5.7	(4.8)

里帰りすることを決めた時期は妊娠11週までが66.2%であったが、実際に東京に里帰りしていた期間は表2に示す通りである。

表2 里帰りの期間

開始		終了	
妊娠11週まで	0.6%	生後2週以内	1.9%
12-23週	1.3	2-3週	7.0
24-31週	10.2	4-5週	49.8
32-35週	53.5	6-8週	21.0
36週以後	32.5	2カ月	14.0
N. A.	1.9	3カ月	2.5
		4カ月以後	1.9
		N. A.	1.9

出産場所を選んだ理由を表3に示す。

表3 出産場所を選んだ理由(重複回答あり)

	東京で出産	地方で出産
評判がいい、安心	72.0%	(44.1%)
里帰りの家から近い	49.7	(47.6)
お里で決めていた	7.6	(12.4)
医師の紹介	4.5	(0.7)
他に出産場所がない	0.6	(4.1)
他(前回出産、母乳主義等)	7.0	(6.2)
理由なし	0	(1.4)

里帰り分娩について妊娠経過中の施設側の反応について表4に示す。里帰りについて何らかの指導は有ったものが42%、無かったものが35%であり、旅行の注意、その後の健診、帰宅時のことが主な指導で、出産や新生児については少なかった。

表4 里帰り分娩についての施設の反応

	東京で出産	地方で出産
すぐに賛成	60.5%	(61.3%)
しぶしぶ賛成	4.5	(10.4)
反対	2.5	(2.8)
他(特になし、話しせず等)	20.4	(14.5)
N. A. (出産施設で妊婦健診など)	12.1	(11.0)

出産状態について表5に示す。非里帰り群と比べて正常産がやや多く、帝王切開や骨盤位が少なかった。在胎週数や出生体重は、里帰り群と非里帰り群で大きな差はなかったが、2000g未満で出生した児は里帰り群では少なく、これらは妊娠中に異常がある場合は、里帰りしにく

表5 出産は

	里帰り群		非里帰り群 東京で出産
	東京で出産	地方で出産	
正常	84.7%	(86.2%)	81.0%
難産	8.3	(6.9)	4.5
帝王切開	1.9	(3.4)	9.7
骨盤位	1.9	(2.8)	3.2
不明	0.6	(0.7)	0.5
N. A.	2.6	(0)	1.1

いことを示している。

入院中の新生児の栄養法について表6に示す。同じ里帰り群の中で東京で出産する場合と地方で出産する場合の間で明らかな差が認められた。入院中の施設で知らないうちにミルクを与えられたと答えた母親は、地方に里帰りした例の26.2%に対して、東京に里帰りした例では8.3%であった。

表6 入院中の新生児の栄養法

	里帰り群		非里帰り群 東京で出産
	東京で出産	地方で出産	
母乳だけ	35.0%	( 5.5%)	17.1%
母乳と糖液	35.7	(11.7 )	18.7
母乳ともらい乳	4.5	( 0.7 )	0.5
母乳と人工乳	22.9	(71.7 )	57.0
人工乳だけ	0.6	( 9.7 )	5.3
不明	1.3	( 0 )	1.1
N. A.	0	( 0.7 )	0.3

退院時に母乳栄養の自信のついたと回答した割合を表7に示すが、東京に里帰りした群が最も多かった。地方に里帰りした施設では、母乳哺育に対する指導や教育が少ないと考えられる。

表7 退院時に母乳栄養の自信がついたか

	里帰り群		非里帰り群 東京で出産
	東京で出産	地方で出産	
ついた	49.7%	(26.2%)	35.5%
つかない	26.1	(36.5 )	30.0
はっきりしない	23.6	(34.5 )	33.4
N. A.	0.6	( 2.8 )	1.1

退院後帰宅までの乳児健診の受診場所を表8に示す。なお、受診しなかった例では全例、帰宅後に健診を受けていた。帰宅後、母親と乳児の健康状態は特に問題なしと答えた率が90%前後であった。しかし、妊娠中里帰りについて施設に反対された例では、母親の健康に問題ありとする率が高かった。

表8 退院後帰宅までの乳児健診は(重複回答あり)

	東京で出産	地方で出産
出産場所で受診	91.1%	(87.6%)
訪問指導	3.8	( 4.1 )
保健所受診	0	( 0 )
他の場所で受診	2.5	( 3.4 )
受診しなかった	7.0	( 8.3 )
その他	0.6	( 0 )

乳児について困ったことがあると答えた割合

は、東京に里帰りした群39.5%、地方に里帰りした群54.5%、非里帰り群65.5%であった。困ったことの内容は、湿疹、夜泣き、喘鳴、体重増加不良、嘔吐、便秘などが多かった。その解決法を表9に示す。

表9 乳児について困ったことの解決法(重複回答あり)

	里帰り群		非里帰り群 東京で出産
	東京で出産	地方で出産	
医師に相談	67.7%	(50.6%)	61.8%
保健婦	14.5	(20.3 )	14.5
自分の母	27.4	(25.3 )	12.4
主人の母	11.3	( 7.6 )	5.2
兄弟姉妹	3.2	( 7.6 )	5.2
友人・知人・近所の人	17.7	(21.5 )	12.9
電話相談	4.8	( 6.3 )	2.0
薬局	0	( 1.3 )	2.0
育児書	24.2	(22.8 )	12.4
その他(デパート等)	1.6	( 0 )	3.2
相談していない	6.6	(12.7 )	5.2

里帰りについての賛否を表10に示す。

表10 里帰りについての賛否

	主人	主人の父母	自分の父母
賛成	84.7%	75.8%	94.9%
反対	0.6	0.6	0
わからない	1.3	13.4	0
しかたなし	13.4	8.9	5.1
N. A.	0	1.3	0

里帰り分娩についての母親自身の感想を表11に示す。次回の出産の際の里帰りの希望の有無では、する67%、しない10%であった。

表11 里帰り分娩についてどう思うか

	自分に	乳児に	主人に
良い	88.5%	73.9%	33.7%
良くない	4.5	8.3	30.6
わからない	6.4	16.5	30.6
N. A.	0.6	1.3	5.1

まとめ：前回報告と同様、里帰り分娩自体について母親は肯定的な考え方が多く、また、非里帰り群と比較して母児の異常は多くなかった。里帰り分娩には種々の欠点はあるが、妊娠出産に関して身体的かつ精神的に助力を得るため、祖母など元の自分の家族に doula 効果を求め里帰り分娩すること自身はやむをえない。里帰り分娩に関して医学的問題がなければ、里帰りすること自身には問題は少なく、母親に里帰り分娩に対する指導をし、母親が不安をもたないような指導方針の確立が望まれる。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



前回は、住所地以外の他府県で出産した里帰り分娩、及び非里帰り分娩についての調査を東京と川崎の保健所で行ったので、今回は逆に、東京に里帰りして出産した里帰り分娩についての実態調査を行った。東京都内にある愛育病院、葛飾赤十字産院、築地産院で昭和58年1月から59年7月までの間に里帰り分娩した母親にアンケートを郵送した。約6600の出産中、病院から2~3時間以上離れた所に自宅がある363例に発送し、住所変更、非里帰り分娩を除く157例から有効回答を得た。以下の表にその結果を示す。なお()内と「非里帰り群・東京で出産」は前回の調査結果である。